



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)
 東京都渋谷区代々木2丁目2番6号
 JR新宿ビル13F 〒151-8512
 電話 03-3375-5740(代)
 発行人 山口浩治 編集人 湯ノ目亜矢子
 月1回発行/一部20円
 (組合員の購読料は、組合費に含む)

2020年5月20日
 第710号



JR東労組ホームページは
 ←こちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>

2020年度夏季手当等に 関する申し入れを行う!

基準内賃金の **3.0ヶ月**

新型コロナウイルス感染症対応に対する特別手当

全従業員(出向者含む)対象に **一律5万円**

支払いについては6月30日まで。回答は6月12日まで。

JR東労組は、5月15日に申20号「2020年度夏季手当等に関する申し入れ」を行いました。

現在(5月20日)も、「緊急事態宣言」が全て解除されていない状況にあります。そして「新しい生活様式」の実践が求められています。

私たちは、これまでもマスクの着用や手洗いの徹底、3密を避けるなど、「感染しない・させない」ための行動をとってきています。また、会社の対策として、自宅待機やテレワーク、時差出勤なども行われています。さらには、学校の休校、外出自粛など、生活スタイルも大きく変化せざるを得ず、それに伴い食費や光熱費が増え、収入へ影響を及ぼしています。

このように、新型コロナウイルス感染症の影響によって急激な変化への対応が社会的に求められる中、様々なことに対して「コロナだから仕方ない」「厳しい状況だ」などと不安感や閉塞感を感じている人が多くいると思います。

職場で働く仲間には、新型コロナウイルス感染症に対して、日々不安の中、業務を担っています。そして、指定公共交通機関として社会的責任を担い、安全・安定輸送をつくり出しています。

医療現場は当然にも感染症のリスクが高い中で対応しなければなりません。駅は、不特定多数のお客さまと接しな

ければなりません。検修職場は、不特定多数が触れた車両を点検・修理しなければなりません。保線職場は、工事するときは「密」にならざるを得ません。これ以外の職場、全ての職種が感染の危険と隣り合わせの中にあるのです。

そのような中、私たちは社会インフラとしての使命を全うすべく、健康管理に努め、安全・安定輸送の完遂に向けて取り組んでいます。そのことによりJR東日本の利益を生み出しています。そして「変革2027」の実現に向けた各種施策を現場で担っているのは、組合員です。

4月28日に発表された、2019年度期末決算は単体・連結共に「減収・減益」でした。昨年相次いだ台風による被害、未だに収束していない新型コロナウイルス感染症が大きく影響した決算になりました。当期純利益は昨年度より減少しましたが、1580億円確保しています。JR東日本は、減収減益でも利益を確保し、賞与引当金も確保済みです。さらに、新型コロナウイルス感染症対策も踏まえ、社債やコマーションペーパーの発行などを行い、強固な経営基盤を維持する体制を整えていることから、企業としての信頼も支払い能力も充分にあると言えます。

JR東労組は、厳しい情勢下であるからこそ組合員の努力に報いるため、そして、組

合員と家族の生活を守るため、会社に堂々と要求します。また、来年に延期されたオリンピック・パラリンピックの準備など、新型コロナウイルス感染症収束後さらなる貢献への期待を会社として示すべきであることを強く訴え、会社と建設的な議論を行い満額の回答を勝ち取ります。

新型コロナウイルス感染症による閉塞感で、いつまでも下を向いてはられません! 取り巻く情勢を見定め、社会全体に及ぶ急激な変化に対応していくために、前を向いて、仲間と共に先を見て議論していきましよう!



バス関東本部

申11号
5月19日提出!

基準内賃金の**3.0ヶ月**

契約社員Aは社員に準じること
 契約社員B及び臨時雇用員は一律5万円を加算すること
 新型コロナウイルス感染症対応に対する特別手当を
 全従業員対象に一律5万円を支給すること
 支払いについては6月30日まで。回答は6月16日まで

バス東北本部

申9号
5月19日提出!

基準内賃金の**2.8ヶ月**

契約社員については社員に準じること
 新型コロナウイルス感染症対応に対する特別手当を
 全従業員対象に一律5万円を支給すること
 支払いについては6月30日まで。回答は6月16日まで

第39回定期大会

日時: 6月22日(月) 10時開会
 場所: 宮城野区文化センター
 コンサートホール

スローガン(案)

組合員の雇用と利益を守るJR東労組をつくり出すため
 「抵抗とヒューマニズム」を基軸に、「新生JR東労組運動宣言」のもと、現場における自由闊達な議論と合意形成を通して組織拡大を勝ち取り、組織の未来を切り拓こう!

大会成功に向け、仲間と共に職場活動をつくり出そう!



新型コロナウイルスが武漢で大流行した頃、我が家にとつての

一大事件が起こった。離れて暮らす家族が大病を患い入院したのだ。当時、ニュースで新型コロナウイルスのことが報じられていたが、それは自分にとつては対岸の火事だった▼しかし、医療現場は、既に厳戒態勢に入っていた。入院中の家族との面会は、タブレット端末を介した5分間のオンライン面会だった。各地の病院で面会謝絶の体制がとられていき、日本でも大変な事態が起こりつつあるのかもしれないと感じたのは、その時が最初だった▼退院するまでの3ヶ月間、私たち家族が乗り切ることができたのは、パソコンやスマホのビデオ通話等で細々と繋がっていられたことも大きい。しかし、そういったツールを持つことができない重病の方や高齢者は、一人で病気の不安と孤独に立ち向かってきたのだと思う▼病院のスタッフの方々は、過酷な状況下で入院中の家族を全力で守っていただけに、感謝しかない。同様に、我がJR東労組の鉄道の仲間、医療の仲間も、非常に困難な状況の中で奮闘されていることについて、深く敬意を表します。
 (U・O)